

特集

医療法人ただともひろ胃腸科肛門科(埼玉県さいたま市)

技術・満足度とも最高レベルのクリニックを目指す

2006年7月、首都圏のベッドタウン、埼玉県武蔵浦和駅近くの医療モールに開業した、ただともひろ胃腸科肛門科。無痛大腸内視鏡検査、内痔核硬化療法(ALTA療法)の専門医療と、真剣勝負を追求し、考え尽くされた運営の工夫でますます拡大している。



理事長・院長 多田 智裕(ただともひろ)氏

1996年、東京大学医学部卒業。同年、同大学医学部附属病院外科に勤務。その後、虎の門病院麻酔科、都立多摩老人医療センター外科、三楽病院外科、同大学医学部附属病院大腸肛門科、日立戸塚総合病院外科、東葛辻仲病院外科などを経て、2006年、ただともひろ胃腸科肛門科を開業し、院長に就任。医学博士。日本外科学会外科専門医、日本消化器内視鏡学会専門医、日本消化器病学会専門医、日本大腸肛門病学会大腸肛門病専門医専門医。

Clinic's Profile

開業：2006年7月
診療科：胃腸科、肛門科、外科
職員数：医師8人(うち非常勤7人)、看護師8人(うち非常勤3人)、看護助手1人、事務5人(うち非常勤2人)
主な医療機器：内視鏡ビデオスコープシ

ステム、経鼻胃内視鏡、デジタル肛門鏡
立地：JR武蔵野線と埼京線が乗り入れる武蔵浦和駅から徒歩4分の高層マンションに入居する医療モール内に開設。
URL：<http://www.musashiurawa.jp/ichoka/>

国内トップレベルの年間4,000件の内視鏡検査

多田智裕氏が、埼玉県さいたま市のJR武蔵浦和駅(武蔵野線・埼京線)から徒歩4分の場所に建つ医療モール「武蔵浦和メディカルセンター」に「ただともひろ胃腸科肛門科」を開業したのは2006年7月のことだ。多田氏は、「無痛大腸内視鏡検査と経鼻内視鏡検査、痔の日帰り手術を3本柱に、世界最高レベルの胃腸科・肛門科の専門医療を提供したいという夢を実現するために開業しました」と話す。



武蔵浦和駅近くの高層マンションの2階に入居した。周辺には高層マンションが多数立ち並ぶ

8軒のクリニックで13の診療科を掲げる医療モールに入居したのも専門特化を追求したことによる。

「自分の専門以外は他のクリニックに気兼ねなく任せ、自らは胃腸科・肛門科に特化した診療に全力を尽くせると考えました」

開業後3年目を迎え、患者数は1日約70人を数える。高度なテクニックを要する無送気軸保持痔短縮法による無痛大腸内視鏡検査が年間2,200件、経鼻内視鏡検査が同1,800件、ジオンを用いた内痔核硬化療法(ALTA療法)による痔の日帰り手術が同約400件という数は、東大大腸・肛門外科医局をはるかに上回り、名実ともに国内トップクラスといえる。

「1年間に発見するがんは、大腸内視鏡検査で約50人、経鼻内視鏡検査で約10人。連携先の帝京大学医学部附属病院へただちに患者さんを送り、手術等の適切な治療を受けてもらっています」

入院が必要とされる痔の患者は同じさいたま市内の痔の専門クリニッ

クに紹介するなど、地域における専門診療科同士の連携は密接だ。

さらに、最近は非常勤の医師が7人に増えた。いずれも多田院長と同様、無送気軸保持短縮法による無痛大腸内視鏡検査やALTA療法等に習熟した錚々たる若手医師ばかりだ。

役立つのは先輩医師のアドバイス

多田氏が、内視鏡による胃腸科と肛門科の専門診療に特化した診療所を構想したのは、開業の3年ほど前。東京大学医学部附属病院の大腸肛門外科の勤務医だったところだ。

「開業準備として大腸内視鏡検査や痔の手術などで国内有数の実績を誇る東葛辻仲病院(千葉県我孫子市)の門を叩きました。約1年間の勤務のかたわら、医療技術はもちろん、クリニック経営まで、さまざまな貴重なノウハウを勉強させてもらいました」

最も勉強になったのは、毎日の診療に真剣勝負で望むという厳しい姿



無痛大腸内視鏡検査を行う内視鏡室。検査の映像を患者が見やすいようにモニターの位置を自在に動かせるようアームを特注した。また、隣接する回復室に患者が寝たままベッドごと移動させるようにキャスターを付けた。これらは診療所のコンセプトを設計に活かした成果の一つ



内痔核硬化療法を行う手術室

勢をどのように維持していくのかということ。

「当院は、患者さんに『検査の満足度』と『当院の満足度』を100点満点の点数で評価してもらうアンケートをお願いしています」

日々の診療が患者の眼で採点・検証されることにより、医師はもちろん、看護師や事務などのスタッフ1人ひとりの間にも常に緊張感が漲らざるを得ない。東葛辻仲病院のやり方になったものである

開業にあたっては、医局の先輩や知人などのつてを頼り、会うことのできる開業医にはすべて会って話を聞いた。そして、自分でできることはすべて自ら行うという姿勢で開業の具体的準備を進めた。

大腸内視鏡検査後アンケート

■検査後に御記入下さい

1. 今回の検査の満足度を100点満点で評価して下さい。(数字を○で囲んでください)

100	90	80	70	60	50	40	30	20	10	0
満足		ほぼ満足		普通		やや不満		不満		

2. 今回の検査について不満を感じることがございましたら○をして下さい。(複数回答可)

a. 何もない	b. 検査の順番	c. 検査がわずかしい	d. 費用	e. 下剤を飲むのが大変
f. 検査前の説明	g. 検査後の説明	h. その他		

3. 今回の検査にあたり、当院への満足度を100点満点で評価して下さい。(数字を○で囲んでください)

100	90	80	70	60	50	40	30	20	10	0
満足		ほぼ満足		普通		やや不満		不満		

4. 次回もこの検査を当院で受けようと思いませんか?

a. 受けようと思う	b. 受けたくないと思う	c. わからない
(よろしければその理由もお聞かせ下さい。)		

5. 何かお気づきの点がありましたら御記入下さい。

患者に満足度を点数評価してもらうことにより、より高い医療・サービスを提供しようというモチベーションになる

「クリニックを経営したことが一度もない医療コンサルタントに頼るよりも、手みやげ一つで開業している先輩医師を訪ね、アドバイスを受けたほうがよほどためになりました」

修正を繰り返して 実現した院内レイアウト

特にこだわったのは、60坪のクリニックのレイアウトだ。例えば、外来待合室とは別に、内視鏡検査のための専用待合室を設けた。大腸内視鏡検査の直前に患者に下剤を服用してもらわねばならないからだ。専用待合室の脇には男女2つずつのトイレと処置が可能な広めのトイレを設置した。また、内視鏡検査や痔の手術後、患者を寝かせたまま、楽に回復室に移動できるようにキャスター付きのベッドを採用。そのベッドを移動させるために最適な広さの処置室や廊下、そして、動線にも注意深く配慮してレイアウトを検討した。

設計士と議論を繰り返して、内視鏡メーカーや医療モール事業を進めるデベロッパーの協力も仰いだ。結局、根本的にデザインが異なる3～4パターンの設計図を描いてもらい、その中から1枚を選び、さらに何回も修正を加えて最終的なレイアウトを完成させた。

「院内レイアウトを最終的に決めるまで、ここまでやるかと思われるほ

ど練りに練りましたが、目指す医療のために徹底的にこだわって今はよかったと思います」

集患のカギは ブログ形式のホームページ

労力を惜しまなかったことのもう一つに、看護師など職員の採用がある。「当院への応募者が看護師なら通常の5～7倍、事務なら20～30倍の人数にのぼるのも、いくつかの広告媒体に広域に募集をかけているからです」

当然、応募してきたら即、採用ということにはならない。採用か否かの基準は、多田氏の目指す医療に共感してもらえるかどうかだ。「何をやってもらえるのかというよりも、未経験者でも私のフィーリングにあうかどうかを最も重要な採用基準です」

一方、集患対策としてきわめて有効なのは、ブログ形式のクリニックホームページだ。ブログ形式なので新着情報やメディア取材記事もタイムリーに載せられ、SEO対策[※]にもなる。

「来院のきっかけで最も多いのはホームページで、受診患者の約60%を占めます」

今後は休診日としている水曜日も開き、月曜から日曜まで休むことなく診療を行いたいとの意欲を示す。開業して3年目を迎え、いまは質を維持しつつ、その向上に努めるなど足下を固める時期だという。

※検索エンジンの検索結果のページ表示順の上位に、自分のウェブサイトが表示されるようにする対策。